

2022年2月16日(水)第三水曜祈禱会

申命記27:1~26

「アーメンの重み」

■『さまざま定め一二つの儀式』(26章)

*12~26章には、約束の地で神の民が守るべき律法の詳細な掟と定めが示される

- ①すべての実りの初物の一部を…すべての農産物は神からの恵みの賜物であることを表す。
- ②収穫の十分の一を…三年の終わりごとに共同体に納め、レビ人や寄留者たちと分かち合った。
- ③契約の更新…。モーセの第二の説教の結び。すべての掟と定めを守るようにとの勧めである。
- ④「今日」…神はご自身のことばがいつも今日のこととして聞かれることを私たちに求めている。

■『アーメンの重み』(27:1~26)

1. ヨルダン川を渡り(27:1~8)

*ヨルダン川を渡った後に更新すべき契約について、モーセは長老たちとともに民に命じる

- ①「すべての命令」…シナイ山において神から与えられたもの。12~26章に記されていること。
- ②「大きな石を立て」…主の命令が書かれた石はエバル山に立てられ、民の前に常に示される。
- ③「主のための祭壇」…全焼のささげもの(全き献身)、交わりのいけにえ(感謝)を献げるため。
- ④「石の上に」…約束の地に入ってから生活の指針がみおしえであることを心に刻むため。

2. 今日あなたは、主の民となった(27:9~10)

- ①「静まって聞きなさい」…生ける神の御前に静思の時をもつことの大切さが強調されている。
- ②「あなたの神、主の民となった」…神は約束されたとおり、主の聖なる民にされたという宣言。
- ③「主の御声に聞き従い」…主の聖なる民としての第一の責任は主の御声に聞き従うこと。
- ④「主の命令と掟を行いなさい」…日々の生活の中で聴き従い続けることを意味する。

3. 祝福とのろい…(27:11~26)

- ①「ゲリジム山、エバル山」…イスラエルの民が六部族ずつ別れ、祝福とのろいを象徴する。
- ②「…者はのろわれる」…モーセの十戒と基本的に同じ内容の十二の戒めが告げられる。
- ③「アーメンと言いなさい」…「アーメン」は戒めへの同意。共同体としての告白を求めている。
- ④「守ろうとせず」…戒めを守らない者は主の裁きを受けることにも同意しなければならない。

まとめ:

- ①旧約時代の石に書かれた律法は、新約時代においてはどこに書かれていますか(Jer31:33)。
- ②「あなたの神、主の民となった」という言葉に私たちはどう応答していきたいですか(Eph2:10)。
- ③律法のすべてを守るができない私たちはどうすれば神の祝福を受けられますか。

「ですから、信仰によって生きる人々が、信仰の人アブラハムとともに祝福を受けるのです。律法の行いによる人々はみな、のろいのもとにあります。」
(ガラテヤ人への手紙3:9、10)